

イワシ類シラスの漁場形成の研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 受託 研究期間 平成7年度～)

担当：資源海洋科 高田伸二

【研究の背景とねらい】

静岡県におけるイワシ類シラスの年間水揚金額は40億円を超えており、沿岸漁業で最も重要な魚種の一つです。シラス水揚統計資料の収集や卵稚仔の分布、海況変動等を把握することで、シラス漁況の変動特性を検討し、シラス漁場形成の要因の解明をします。

【これまでに得られた成果】

(平成30年度の状況)

- 平成30年度漁期(平成30年3月～平成31年1月)の主要6港(静岡、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居)における総水揚量は5,306トンで、前年(4,557トン)の116%、過去5ヵ年平均(以下、平年)(6,973トン)の76%でした(図1)。
- 平成30年度漁期の3、4月の水揚量は、前年と平年を上回り好調でした。7～8月は、平成25年以降水揚量が少ない傾向が続いており、今漁期も低調に推移しました。9月以降は、前年と同様に明瞭な水揚量ピークはみられなかったものの、前年を上回る水揚量で推移しました(図2)。
- 魚種別の漁況は、カタクチイワシシラスが期を通じて漁獲され、5月に最も水揚量が多くなりました。マイワシシラスは3～5月と12～1月に漁獲され、4月に最も水揚量が多くなりました。ウルメイワシシラスは3～6月と11～1月に漁獲され、5月に最も水揚量が多くなりました。(図3)
- マイワシ資源量増加の影響で、3～5月にマイワシシラス水揚量が増加傾向にあることがわかりました(図4)。
- シラス漁況の2～4ヵ月の予測を行うとともに、調査船による漁場加入前のシラス分布状況を調査し、結果を研修にて漁業者や加工業者に広報しました(計4回)。

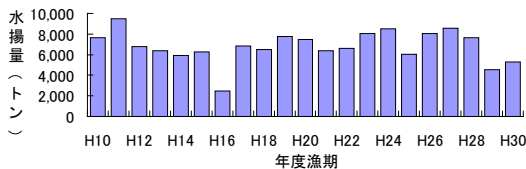


図1 県内主要6港における漁期別水揚量

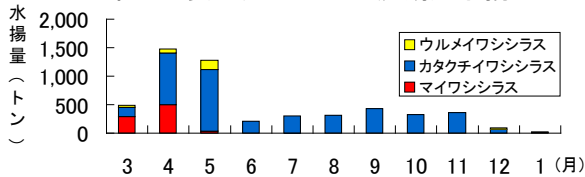


図3 県内主要6港における月別魚種別水揚量の推移

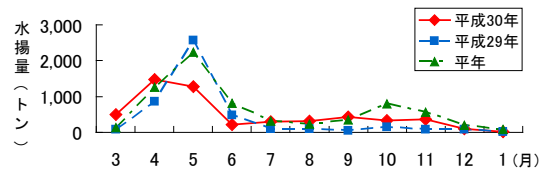


図2 県内主要6港における月別水揚量の推移

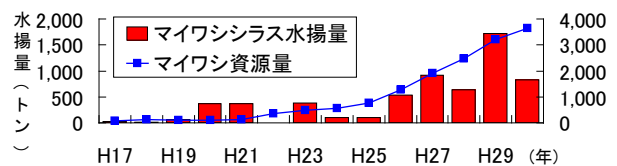


図4 県内主要6港における3～5月マイワシシラス水揚量とマイワシ資源量の推移

【期待される効果】

- シラス漁場形成の要因が解明され、高精度の漁況予測が可能になれば、シラス漁業者は計画的な操業が、シラス加工業者は計画的な出荷が可能となります。

【今後の計画】

- シラス漁況と卵稚仔の分布、海況変動等との関係を明らかにし、さらに漁場加入前のシラス採集調査を行うことで、シラス漁況の高精度の予測手法を確立します。

(作成 平成31年4月)